

第6章

未来創造プロジェクト

「未来の光市」 絵画コンクール
まちづくり市民協議会会長賞



「やさしさの心と笑顔あふれる町」
光井小学校 6年 田丸 菜々子 さん

未来創造プロジェクト

市民が幸せや満足を積み重ねることができるまちを創造するためには、「後期基本計画」における各施策の総合的な推進に加えて、後期5年間のまちづくりを戦略的かつ効果的に進める必要があります。このため、後期基本計画期間（平成24年度から平成28年度）において、特に優先して取り組む政策を「7つの未来創造プロジェクト」として位置付けます。

本市の「3つの都市宣言」の理念等を踏まえた、これらのプロジェクトに沿って、今後、部局や施策を超えて集中的な取り組みを展開するとともに、選択と集中の観点から、毎年度の予算編成において経営資源の重点配分を考慮し、期間内で一定の成果を目指します。

1 ふれあいで絆を紡ぐコミュニティ創造プロジェクト

【推進方針】

時代が大きな転換期を迎える中、市民からの様々な期待や信頼に応え、温もりや豊かさを実感できる地域社会を築いていくための原動力は、地域力です。

多様な地域づくりを進めるため、自分たちの地域のあり方を自ら考え、決め、実行できる、自主・自立の精神に富んだ地域コミュニティの構築を目指します。

戦略1 地域の主体的なコミュニティ活動を応援します

公民館や自治会、町内会をはじめ、各地区の社会福祉協議会、社会教育団体などのコミュニティ組織が、自分たちの地域のあり方を自ら考え、実行できる環境や、市民が気軽にNPOなどの公益活動に参加できる環境の整備を進めます。

【具体的取り組み】

- （仮称）室積コミュニティセンターの整備
- 各地区における地域コミュニティ活動の拠点機能の充実
- 地域づくりの中核を担う、新たな地域コミュニティ組織づくりの推進
- 自らの考えやアイデアを活かした地域コミュニティ活動への支援
- 地域づくり支援センターの充実と、自主的・主体的な市民活動の支援
- 市民と行政が対等な立場で取り組む、協働事業の充実

2 健やかで確かな安心地域包括ケア創造プロジェクト

【推進方針】

本市の高齢化は、全国よりも5年から10年も早いペースで進んでおり、近い将来、市民3人に1人が65歳以上の高齢者になると見込まれています。

こうした超高齢社会の到来を見据え、本市の2つの市立病院をはじめ、まちの強みを最大限に活用し、高齢者をはじめ市民が住み慣れた地域で幸せに生活できる理想社会の実現を目指します。

戦略1 地域包括ケアシステムの構築を進めます

本市の「強み」である2つの市立病院や地域福祉ネットワークなどの有形・無形の資源と、介護や医療、生活支援などに係るサービスを有機的に連動させた、「地域包括ケアシステム」の構築を目指します。

【具体的取組み】

- 介護や医療、生活支援サービスなどが円滑に連携した、包括的・総合的なケアマネジメント体制の構築
- 大和総合病院における慢性期医療や予防医療の充実、回復期リハビリテーション病棟の設置
- 高齢者の権利擁護と認知症支援策の充実
- 地域包括支援センターの機能強化
- 地域包括ケアシステムを支えるサービス体制の充実
- 高齢者を地域で支える福祉ネットワークの構築

3 家庭と地域で包み込む温もり子育て創造プロジェクト

【推進方針】

少子化や核家族化、都市化の進行などを背景に、家庭における親子のふれあいや、地域における交流・体験機会が失われつつあるなど、社会の教育力が問われています。

このため、「おっぱい都市宣言」の理念のもと、家庭や地域における養育力を再生するとともに、社会全体で子どもたちのたくましく、心豊かな成長を応援します。

戦略1 家庭の養育力を高めます

教育の原点である家庭の養育力を高めるため、保護者が子育てに夢をもち、豊かなコミュニケーションを図りながら、子どもの健やかな成長を温かく見守ることができる、ゆとりある子育て環境を創出します。

【具体的取組み】

- 妊産婦・乳幼児訪問や各種相談事業など、総合的な母子保健の推進
- ワーク・ライフ・バランスの普及啓発など、子育てと仕事の両立の支援
- 家族の団らんの輪を広げ、ふれあい促進や子育てに関わる負担の軽減、様々な知恵や知識の伝承など、多くの利点が考えられる多世代同居、近居の促進

戦略2 地域の子どもは、地域で育てます

私たちのまちで育つ子どもたちが、ふるさとの自然や文化に親しみながら、志のある大人に成長し、地域や社会を担う一員となるよう、地域社会全体で子どもたちを育てる風土をつくれます。

【具体的取組み】

- 放課後子ども教室や留守家庭児童教室（サンホーム）の充実
- コミュニティスクール指定校の拡大
- 保育園、幼稚園を拠点とした地域とのふれあい、交流活動の促進
- 子どもたちの校外活動や地域活動、社会参加機会の充実

4 人と自然が共生するエコロジー生活創造プロジェクト

【推進方針】

自然環境への負荷が増大した結果、地球規模での環境問題が顕著となり、その名のごとくひかり輝く本市の自然環境が脅かされています。

自然と人の営みの共生を目指す「自然敬愛都市」として、かけがえのない故郷の自然を次世代に継承するため、自然エネルギーの導入や資源リサイクルの取組みを充実します。

戦略1 自然エネルギーの導入を加速し、低炭素社会づくりに貢献します

太陽光をはじめとするクリーンな光市産エネルギーの導入を促進するとともに、エネルギー消費の削減や効率的な使用を進めます。

【具体的取組み】

- 住宅用太陽光発電システム設置への支援
- 公共施設への太陽光発電システムや太陽熱利用システムの導入
- 未利用のエネルギー資源の活用検討
- 省エネ型街路灯への転換など、省エネ製品の導入促進

戦略2 「もったいない」の輪をひろげ、循環型社会づくりに貢献します

無駄を出さない、物を使い切るなど、全ての物を大切にする「もったいない」という日本古来の文化を継承し、ごみの発生抑制、再利用、再資源化というサイクルを徹底するとともに、環境にやさしいライフスタイルの普及を図ります。

【具体的取組み】

- 子どもから高齢者まで、各世代に応じた環境学習の推進
- 家庭用品のリユースを支援する不用品交換システムの充実
- 家庭ごみの約40%を占める生ごみのリサイクルの推進
- 物を大切にする、「もったいない文化」の普及啓発
- エコショップ認定制度の充実など、小売店や事業者が取り組むごみの発生抑制やごみの減量化、再資源化の促進と支援

5 地域力で災害を防ぐ安全なまち創造プロジェクト

【推進方針】

未曾有の東日本大震災をはじめ、台風や局地的な豪雨に伴う風水害の教訓などから、暮らしの安全・安心を求める声がたいへん高まっています。

このため、「安全・安心都市」として、ソフトとハードの両面から、災害に強い都市づくりを進めるとともに、市民生活から様々な危険や不安を排除し、誰もが安全と安心を実感できるまちの実現を目指します。

戦略1 地域の力を活かした防災・減災を進めます

自助・互助・共助・公助の適切な役割分担のもと、家庭でできる備えや、地域コミュニティでできる対策を支援し、社会全体の防災力、減災力の向上を図ります。

【具体的取組み】

- 地域の自主防災組織の育成と消防団員の確保
- 防災研修、防災訓練の実施
- 災害時要援護者の避難援助対策の確立
- 「地域防災計画」の見直しや、各種防災マニュアルの充実
- 各種ハザードマップの活用と津波ハザードマップの作成の検討

戦略2 災害に強いまちをつくります

火災や自然災害の被害を最小限に抑えるため、防災と減災の視点から、災害危険箇所や避難路・避難場所の整備をはじめ、公共施設や学校施設、ライフラインの耐震化を図るなど、災害に強いまちの実現を目指します。

【具体的取組み】

- 災害情報を発信する防災行政無線の整備と消防救急無線デジタル化の推進
- 災害危険個所の点検、整備
- 学校施設やライフラインの耐震化の推進
- 災害時の防災拠点となる市役所本庁舎の耐震診断の実施や、避難所の確保、整備の推進

6 里の厨と光の海から始まる活力ある第六次産業創造プロジェクト

【推進方針】

従事者の高齢化や後継者不足など、第一次産業を取り巻く環境が厳しさを増す一方、安心できる地場産の食材に対する市民ニーズは日増しに高まっています。

このため、農業振興拠点施設「里の厨」を中心に、地場産農林水産物の加工や販売による地産地消を推進するとともに、経営基盤の整備や後継者の確保対策などにより、本市の第一次産業を振興します。また、「食」や「農」に「環境・教育・観光」などの視点を有機的に組み合わせた第六次産業化を促進し、まちに活力と賑わいを創出する「新たな価値」を生み出します。

戦略1 「里の厨」を中心に、地域農業を活性化します

「里の厨」を中心に地場産農産物の高付加価値化や業務利用を促進し、生産者の収益力の向上や経営の安定化を図るなど、地域農業を活性化します。

【具体的取組み】

- 地産地消の促進による、農産物の消費拡大
- 農産物の学校給食をはじめとした業務利用の促進
- 農産物のブランド化の推進
- 認定農業者やエコファーマー、農業後継者の育成支援
- 全国のモデルとなる次世代型農業生産構造の確立

戦略2 光の海が育む資源で、水産業を活性化します

水産資源の保護・管理などにより持続可能な漁場環境を整備し、経営の安定化を図るとともに、次代の水産業を担う就業者の育成を支援し、安全・安心で豊かな水産物の供給を促進します。

【具体的取組み】

- つくり育てる漁業と資源管理型漁業による水産資源の保護・管理
- 漁港施設の機能強化
- 地産地消の促進による、水産物の消費拡大
- 水産物のブランド化の推進
- 県や漁協等との連携による新規漁業就業者の育成支援

戦略3 「里の厨」で第六次産業化を推進し、新たな活力を生み出します

「里の厨」を中心に、生産から加工、販売に至る一体的な流通販売体制を構築するとともに、「食」や「農」に「環境・教育・観光」などの視点を組み合わせた第六次産業化を推進し、まさに「新たな価値」を生み出します。

【具体的取組み】

- 付加価値の高い商品開発や新たな流通チャネルの確立など、「里の厨」を中心とした新たな地域活力の創出
- 「里の厨」を活用した障害者の豊かな体験の場づくりや、キャリア形成の支援
- 子どもたちが地域の食文化や農業の役割を学ぶ食農教育の推進
- 季節に応じた様々なイベントの開催や、「食」や「農」を楽しむツーリズムの推進
- 無（減）農薬栽培や堆肥の活用など、環境保全型農業の推進

7 コンパクトシティによる快適空間創造プロジェクト

【推進方針】

少子高齢化に伴う人口減少や交通結節機能の後退、空き店舗の増加など、地域活力の低下が懸念される岩田駅周辺地区では、将来を見据えた対策が急務となっています。

このため、行政施設やコミュニティ施設、医療・福祉施設など、多様な都市機能がコンパクトに集積するこの地区の特性を活かし、誰もが安心して住み続けられるまちの実現を目指します。

戦略1 誰もが安心して住み続けられる、快適で便利なまちを目指します

J R岩田駅周辺に集積する様々な施設や社会資本の効果的な活用と再編により、生活機能のコンパクトな集約を進めるとともに、地域コミュニティの力を引き出し、誰もが健やかで安心した生活を営むことができるまちの実現を目指します。

【具体的取組み】

- 大和支所などの公共施設の整備や再配置のあり方等の検討
- 市営溝呂井住宅の非現地建替え
- 道路整備の段差や暗がりの解消など、安心できる居住環境の整備
- 空き店舗等を活用した、地域コミュニティ活動の場の創出
- 大和総合病院の一次医療の確保と、慢性期医療やリハビリを主体とした病院への整備
- J R岩田駅周辺の土地地区画整理事業など、良好な住環境のあり方の調査・研究

まちづくり・フォトコレクション「未来に伝えたい風景」
一般の部 入賞



「暖かい日」（撮影場所：冠山総合公園）
岩崎康治さん